

「フーッ♡フーッ♡
直斗ッ！早くッ早く交尾しよッ♡」

「……わ、分かったから
少し離れてくれ……」

「それと、ゴムはちゃんと……」

プルルル…
プルルル…

「……○○さん……？
……ごめん……少し電話をさせてくれるかい……？」

「むう……俺に弱み
握られてるクセに生意気……ッ……」

「はい、どうしました……」

「かつ……!？」

「フーッ♡フーッ♡

早くしてよおっ…!!♡」

「ちよっ、電話中ッ…!!」

「あ、いえ…何もッ
ありませんよ…!!」

「少し…友人にちよつかいを
かけられて…ハハ…」



「そ、それで用事は…？
…ええ…はい…」

（ま、全く…こんな遠慮なしに
しがみついてくるなんて…!!）

（あの時…事件解決の為とはいえ…
こんな子供に体を差し出したのは…）

（やっぱり失敗だったか…）



「直斗ツ…直斗オツ…♡」

「ツツ…♡」

（相変わらず、凄く大きい…♡）

（ああ…いけない、こんなモノに
夢中になっていては…♡）



「えッ? あッ、はい…
聞いていますよ…」

「…えと…その…」

アセアセ…

「えっと…申し訳ありませんが…
今は別に集中したい事件がありました…」

「はい、はい……手が空き次第
そちらの方も…ええ…」

「それでは…♡」



「…全く…もう…!!
人が電話をしてる時は
ちよつかいを出したらいけないだろう…!？」

「うっせっ!!女だってこと
バラされなかっただけありがたいと思えよっ♡」

「ぐ…♡」

「全く調子に乗って…」

「ほらっ、もう俺限界ッ
さっさとこーびッ♡こーびしよッ♡」

「わ、分かったよ…もう…ッ…」

パパ…♡



「あゝ気持ちいいッ♡
ねっ!!直斗もきもちーでしよっ!!」

あゝ♡
きもち♡

ゾクゾク♡

ズンズン♡

あゝ♡

ズンズン♡



「べ…別に…ただの…
…生理現象…さ…ッ」

「それとねっ…も…もう少し…
ムードを大切にし…」

「むっ…」



「うっさいぞッ♡
僕のちんぽにメロメロのクセにッ♡」



(くうっ……!!
全くッ……なんて教育のなっていない……!!)

(しかし……このち……ちんぽの
気持ちよさは事実……♡)

(……ふ……不服だ……ッ♡)



「ああ〜っ…出る出る出るッ…♡
ザーメン上がってきた…ツツ♡」

(う…っ…♡

また…またあれがくるのかっ…♡)

ドキドキ♡

グッ♡

ズキュ♡

グキュ♡



「出るうっ…!!♡」

ぐっ♡
おっ♡

おっ…♡

グッ♡

グッ♡
グッ♡
グッ♡





「ふうっ…出た出た…♡」



(ま…全く…無遠慮な…♡)

(こんなの続けられていては…
腰が砕けてしまう…♡)

「直斗っ、セックス!!
もっかいセックスするぞっ♡」

「…し、仕方ないな…♡」

(…しかし…♡)

(彼の目の前でだけなら…)

(女でいるっていうのも…
悪くないかもしれないな…♡)